予算常任委員会

平成20年9月18日午前9時から第1会議室で開かれた。

1. 出席委員

◎木澤 正男	○浦野 圭司	宮崎 和彦
伴 吉晴	嶋田 善行	木田 守彦
中川 議長		

2. 理事者出席者

町 長	小城 利重	副 町 長	芳村 是
教 育 長	栗本 裕美	総 務 部 長	池田 善紀
総 務 課 長	佐藤 滋生	企画財政課長	面卷 昭男
税 務 課 長	山崎 善之	住民生活部長	西本 喜一
福 祉 課 長	西川 肇	国保医療課長	植村 俊彦
建 設 課 長	加藤 保幸	都市整備課長	藤川 岳志
上下水道部長	谷口 裕司	上水道課長	佃田 真規
会 計 管 理 者	浦口 隆	教委総務課長	野崎 一也

3. 会議の書記

議会事務局長	藤原 伸宏	同 係 長	峯川 敏明
--------	-------	-------	-------

4. 審査事項

別紙の通り

開会（午前9時00分）

署名委員 伴委員、 嶋田委員

委員長 おはようございます。全委員出席されておりますので、ただいまより、予算常任委員会を開会いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

はじめに、町長の挨拶をお受けいたします。 小城町長。

（ 町長挨拶 ）

委員長 それでは、本委員会の会議録署名委員を私より指名いたします。
署名委員に、伴委員、嶋田委員のお二人を指名いたします。両委員にはよろしく願いいたします。

それでは、審議に移らせていただきます。

本日の審査案件は、お手元に配付しておるとおりでございます。

レジメに沿って進めてまいりたいと思います。

はじめに、1. 付託議案についてであります。

（1）議案第41号、平成20年度斑鳩町一般会計補正予算（第4号）についてを議題といたします。

理事者の説明を求めます。 面巻企画財政課長。

企画財政 課長 それでは、議案第41号、平成20年度斑鳩町一般会計補正予算（第4号）につきましてのご説明を申し上げます。

まず、議案書を朗読させていただきます。

（ 議案書朗読 ）

企画財政 課長 前回の委員会におきまして、今回、予算補正をお願いしております内容等につきましては、一定のご説明をさせていただきましたが、本日、補正予算書を提出しておりますので、再度、補正予算書によりま

して、ご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、7ページをお開きいただけますでしょうか。

まず、歳入予算からご説明をさせていただきます。

第9款地方特例交付金では、平成20年度の交付額の決定により、第1項地方特例交付金、第1目地方特例交付金の、第1節児童手当特例交付金で15万3千円の増額、第2節減収補てん特例交付金で1,282万8千円の増額、また、第2項特別交付金、第1目特別交付金では、同じく平成20年度の交付額の決定により、8万7千円の増額補正をお願いするものでございます。8ページをお開きいただけますでしょうか。第10款地方交付税、第1項地方交付税では、平成20年度の普通交付税交付額の決定により、第1目地方交付税で、6,004万円の増額補正をお願いするものでございます。次に、第17款寄附金、第1項寄附金では、第1目寄附金の教育費寄附金で、歴史文化遺産の保全と活用にと、7名の方からご寄附いただきましたことから、9万円の増額補正をお願いするものでございます。次に、第18款繰入金、第1項基金繰入金では、第3目藤ノ木古墳整備基金繰入金で、676万2千円の追加補正をお願いしております。藤ノ木古墳整備基金につきましては、史跡藤ノ木古墳の整備が完了し、その目的を果たしましたことから、廃止してまいりたいと考えております。しかしながら、本町に現存します歴史文化遺産は、わが国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な国民的財産でありますことから、この貴重な歴史文化遺産を守り、次の世代に引き継ぐとともに、ふるさと納税寄附金の受け皿として、新たに「斑鳩の里歴史文化遺産保存・活用基金」を創設し、この取崩し額を本基金に積立てさせていただきたいと考えております。9ページにお移りいただきまして、第19款繰越金、第1項繰越金では、第1目繰越金で、平成19年度一般会計の余剰金の確定により、9,703万6千円の増額補正をお願いするものでございます。次に、第20款諸収入、第5項雑入では、第5目雑入で、後期高齢者医療広域連合から受託事業として実施しております、後期高齢者健康診査につきましては、当

初、健診希望者のみを想定しておりましたが、本事業の初年度であり、その周知・普及を図る観点から、対象者全員の方に受診券を配布させていただきました。このため、受診者の増加が見込まれますことから、保健事業委託金で、後期高齢者医療広域連合からの事業委託金691万9千円の増額補正をお願いするものでございます。なお、歳出予算におきましても、その受診者の増加に係る所要額の増額補正をお願いしております。次に、第21款町債、第1項町債では、第2目土木債で、JR法隆寺駅周辺整備事業債について、今年度前期の起債同意予定額の確定により、140万円の増額補正をお願いするものでございます。

以上が、歳入に関わります予算補正の内容でございます。

続きまして、歳出予算の内容につきましてご説明を申し上げます。

10ページをお開きいただけますでしょうか。第2款総務費、第2項徴税費では、第2目賦課徴収費で、平成20年度税制改正による個人住民税の公的年金からの特別徴収制度の導入に伴い、平成21年1月から公的年金等支払報告書の情報を電子的に受け渡すこととされました。このことにより、地方税ポータルシステムを導入し、税務システム改修等の環境整備を行う必要が生じたことから、平成20年度に要します導入費用等として、第13節委託料で683万6千円、第14節使用料及び賃借料で18万3千円、第18節備品購入費で44万1千円、第19節負担金補助及び交付金で4万7千円、あわせまして750万7千円の追加補正をお願いするものでございます。

11ページにお移りいただきまして、第3款民生費、第1項社会福祉費では、第10目障害福祉費の、第23節償還金利子及び割引料で、平成19年度障害者自立支援給付費等国庫負担金の超過受入れにより、国庫に償還する必要が生じたため、国庫負担金精算還付額1,436万5千円の増額補正をお願いするものでございます。また、第11目ふれあい交流センターいきいきの里管理運営事業費では、ホール系統室外機などの修繕が生じたため、第11節需用費で、修繕料106万4千円の増額補正をお願いするものでございます。12ページをお開

きいただけますでしょうか。第4款衛生費、第1項保健総務費では、第4目健康増進事業費の、第13節委託料で、歳入のところで申し上げましたように、後期高齢者健康診査の受診者の増加が見込まれますことから、健康診査委託料696万8千円の増額補正をお願いするものでございます。次に、第7款土木費、第4項都市計画費では、第1目都市計画総務費の、第13節委託料で、今般、県から市街化区域と市街化調整区域との区域区分及び、用途地域の指定の見直しに係るスケジュールが発表され、県においては、平成22年度の都市計画決定を目途として、今年度から見直し作業に入り、年内に市町村素案の提出を求められる予定となっております。このため、市町村素案の策定に際して必要となる町の基本方針の作成、変更地域の検討に伴う調査等の業務を行う必要が生じたことから、線引き見直し素案策定業務委託料450万円の追加補正と、JR法隆寺駅整備事業にかかる今年度前期の起債同意予定額の確定による町債の増額による、140万円の財源振り替えをお願いするものでございます。13ページにお移りいただきまして、第9款教育費では、学校施設の耐震化につきましては、国の緊急措置が大幅に拡充されるなど、その対応が求められているところであり、本町におきましても、児童・生徒の安全を確保するほか、震災時の避難所となることから、現計画を可能な限り、前倒しして実施してまいりたいと考えております。本年度において、斑鳩小学校の本館及び資料館、斑鳩西小学校の本館、北館、及び体育館、斑鳩中学校の体育館の2次耐震診断を前倒しして委託実施するため、第2項小学校、第1目学校管理費の、第13節委託料で、2,650万6千円、第3項中学校費、第3目学校管理費の、第13節委託料で、306万4千円の追加補正をお願いするものでございます。14ページをお開きいただけますでしょうか。第5項社会教育費、第4目文化財保存費の、第25節積立金では、斑鳩の里歴史文化遺産保存・活用基金への積立金685万2千円の追加補正をお願いするものでございます。歳入のところで申し上げましたように、新たに創設させていただく「斑鳩の里歴史文化遺産保存・活用基金」に、藤ノ木古墳整備基金に属す

る現金676万2千円を引き継ぐとともに、歴史文化遺産の保全と活用としていただきました寄附金9万円を本基金に積立てさせていただくものでございます。次に、第12款予備費、第1項予備費では、第1目予備費で、今回の補正から生じました財源1億1,448万9千円を留保させていただくものでございます。

恐れ入りますが、4ページにお戻りいただけますでしょうか。

第2表地方債補正についてでございます。歳入のところで申し上げましたとおり、今年度前期の起債同意予定額の確定により、JR法隆寺駅周辺整備事業に係る起債の限度額を5億5,210万円とする補正をお願いするものでございます。

それでは、1ページにお戻りいただけますでしょうか。

予算書を朗読させていただきます。

(予算書朗読)

企画財政課長 以上で、平成20年度斑鳩町一般会計補正予算(第4号)につきましてのご説明とさせていただきます。

何とぞ温かいご審議を賜り、原案どおりご可決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

委員長 説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。
伴委員。

伴委員 12ページの上の健康増進事業費の分で、これ約700万ほど計上されてますねんけど、これ全員に送られたことによって何人ぐらいこれ受けて、受けるんちがうやろかというような予測をされてるわけですか。そしてこれ1人あたりもう一度なんぼでしたんかな。

住民生活部長 今回対象者2,790人のうち35パーセントは受診あるということで、976人分の補正を増やさせていただきました。それから1人

当りですが、8,005円、8,005円になっております。以上です。

委員長 他にございませんか。 浦野委員。

浦野委員 13ページの学校耐震補強のことなんですけども。地上物の建物の補強ということで、前委員会から聞かされているんですけども。例えば地下の基礎部分の補強、あるいは地面の地耐力の補強というのは、大変しにくいものかと思うんですけども、地耐力とかそういったものも測られて、十分な地耐力があることを確認されているのか、その辺はどうなんでしょうか。

教委総務課長 今回9月補正でお願いしておりますのは、耐震化によります2次診断の補正でございます。2次診断につきましては建物の強度といった形でIS値の評価を、耐震化がどんだけあるかということでの補正でございます。基礎部分につきましては設計書によりましての図面での調査ということでございます。そういった中で、2次診断の中でも、そういった形で設計書によります調査をしていただけるということでございます。

浦野委員 まあ地耐力は、周辺の地耐力を測れば建物の下の地耐力も予測はできると思うんですけども、その辺はされてないということですか。そして今後されないということですか。

教委総務課長 周辺の地耐力ということでございます。これにつきましても当初建築される場合につきましても、そういった形で当然調査されておるわけございまして、そういった形で設計書も踏まえております。そういった形で1次診断、2次診断の前に1次診断というのがございまして、そういった形で設計図書での判断をされておりまして、そういった形で十分対応できるものではないかというふうに考えております。

委員長 他にございませんでしょうか。 木田委員。

木田委員 12ページのね、7款の土木費の都市計画費なんですけどねんけども。平成22年度に見直されるということで、本年より見直しっちゅうんですか、そういう素案の策定に入るということなんですけどねんけども。これも地元の要望があって初めてそういう線引きの見直しがなされると思いますけどねんけども。今のところですね、どういうふうにそういう要望とかそんなんあんのか、あるいはもう今現在のままで新たな見直しは行われぬのかね、それについてですな、こんだけ時代も進んでおるから、なんぼかは見直しの地域がでてくると思いますけどねんけれども、そういう地元からの要望とかそんなんでてるとこあったら教えてもらいたいと思います。

都市整備課長 今、ご質問いただきました線引き及び用途変更の見直しでございますが、これは基本的には地元の皆様方からの要望に基づいて行うものではございません。まず、斑鳩町の都市計画マスタープランと、そういった町のまちづくりの考え方、それと先に示されております県の基本的な考え方に基づいて行います。ただしご指摘いただいておりますように、住民の皆様方からご要望も当然ございますので、十分に加味をした形で、計画の方をまとめてまいりたいと思っております。それで、今ご質問いただいております住民さん方からの要望でございます、につきましては、具体的に幸前の方で一部市街化調整区域から市街化区域の編入要望というのは、1件文書でいただいているところがございます。

木田委員 そしたらでんな、地元の要望も取り入れていただけるといことなんですけども、県や町のまちづくりっちゅうんですか、それに反してですね、その計画を拒否するっちゅうことは地元としてはできるんですかな。その線引きの中に組み入れられたら、いや、うちはそんなん

いらんよって除いといてくれ言われたら、それはできるんですかね、拒否できますか、それは。

都市整備課長　もちろんですね、変更する、変更をさせていただこうとする場所につきましては、皆様方のご意見をお伺いをさせていただいたうえで、そういった皆様方からのご意見を十分考慮しながら最終まとめていくということになろうかと思えます。

委員長　他にございませんでしょうか。　西本住民生活部長。

住民生活部長　先ほどの伴委員のご質問の健康審査の1人あたりの額ですけれども、ちょっと私間違った数字言いました。8, 005円って言いましたけれども正しくは8, 505円でございます。すいません。訂正方よろしくお願いたします。

委員長　他にございませんか。

(な し)

委員長　それではないようですので、これをもって、質疑を終結いたします。お諮りいたします。本案については、当委員会として原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長　異議なしと認めます。よって議案第41号については、当委員会として満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、(2)議案第42号、平成20年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)についてを議題といたします。

理事者の説明を求めます。　植村国保医療課長。

国保医療課長 それでは、議案第42号、平成20年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）についてご説明申し上げます。

まず、議案書を朗読いたします。

（ 議案書朗読 ）

国保医療課長 今回の補正の内容でございますが、先月の委員会でご説明させていただきましたことと相違ございません。あらためて予算書に沿ってご説明を申し上げたいと思います。

それでは、予算書の7ページをお開きいただけますでしょうか。まず歳入からご説明申し上げます。第2款国庫支出金、第1項国庫負担金でございます。第1目の療養給付費負担金で123万1千円の増額でございます。内訳は、第2節後期高齢者支援金分現年分で560万6千円の増額、後期高齢者支援金の確定に伴うものでございます。第3節介護納付金分現年分834万4千円の減額でございます。介護納付金の確定に伴うものでございます。第4節医療給付費分、過年度分396万9千円の増額でございます。平成19年度の精算によります追加交付を受けるためのものでございます。第2目老人保健医療費拠出金負担金でございますが、222万3千円の減額でございます。老人保健拠出金の確定に伴うものでございます。続きまして第2項国庫補助金でございます。第1目の財政調整交付金で653万3千円の減額をお願いするものです。内訳は第1節医療給付費分普通財政調整交付金で580万8千円の減額、これは老人保健拠出金確定に伴うものでございます。第2節後期高齢者支援金分普通財政調整交付金148万4千円の増額です。後期高齢者支援金の確定に伴うものでございます。8ページでございますが、第3節介護納付金分普通財政調整交付金220万9千円の減額でございます。介護納付金の確定に伴うものでございます。続きまして第3款療養給付費等交付金、第1項療養給付費等交付金、第1目療養給付費等交付金でございますが1、5

08万2千円の増額でございます。平成19年度精算によります療養給付費等交付金の追加交付を受けるものでございます。続いて第4款前期高齢者交付金、第1項前期高齢者交付金、第1目前期高齢者交付金です。7,794万4千円の増額でございます。この費目は退職医療制度等の原則廃止など医療制度改革によりまして、今年度新たに設けられた交付金でございます。当初予算を計上する際には、国が示します基準どおりに行いましたが、概算交付金が今回確定しましたことから、増額の補正をお願いするものでございます。なおこの交付金は翌々年度に精算いたしますことから、このたびの金額が最終確定金額にはならないということにつきましてはご理解いただきたいと思います。続いて第5款県支出金、第2項県補助金、第1目財政調整交付金でございます。508万円の減額でございます。内訳は第1節医療給付費分普通財政調整交付金で451万7千円の減額、老人保健拠出金確定に伴うものです。第2節後期高齢者支援金分財政調整交付金115万5千円の増額、後期高齢者支援金の確定に伴うものでございます。第3節介納付金分普通財政調整交付金171万8千円の減額、介護納付金の確定に伴うものでございます。第6款共同事業交付金、第1項共同事業交付金、第1目共同事業交付金でございます。462万8千円の増額をお願いするものです。歳出で保健財政共同安定化事業拠出金の補正を行います、計上させていただいておりまして、歳入におきましても同額の増額の補正をお願いするものでございます。10ページでございます。第10款諸収入、第3項雑入でございます。合計で1億879万5千円の減額をお願いするものでございます。歳入と歳出との差でございます。まず第6目の雑入で5,379万9千円の減額を、また第7目の歳入欠陥補填収入で5,499万6千円の減額をそれぞれお願いするものでございます。続きまして11ページ、歳出の方をご説明申し上げます。第2款の保険給付費、第1項療養諸費の、第1目一般被保険者療養給付費、第3目の一般被保険者療養費及び第2項の高額療養費、第1目の一般被保険者高額療養費についてでございますが、国、県の財政調整交付金、前期高齢者交付金に

補正がございましたことから、財源の内訳を変更したものであり予算の増減はございません。12ページをお願いしたいと思います。第3款後期高齢者支援金等、第1項後期高齢者支援金等、第1目後期高齢者支援金でございます。1,668万8千円の増額をお願いするものであります。後期高齢者支援金の額の確定によりまして、当初予算額との差額の増額をお願いするものでございます。13ページ第4款前期高齢者納付金等、第1項前期高齢者納付金等、第1目前期高齢者納付金でございます。16万3千円の増額でございます。前期高齢者納付金の額の確定によりまして、当初予算額との差額の増額をお願いするものでございます。第5款老人保健拠出金、第1項老人保健拠出金、第1目老人保健医療費拠出金でございます。1,795万7千円の減額をお願いするものでございます。老人保健拠出金の額の確定によりまして、当初予算額との差額を減額するものでございます。14ページでございます。第6款介護納付金、第1項介護納付金、第1目介護納付金でございます。2,454万2千円の減額をお願いするものです。介護納付金の額の確定によりまして、当初予算額との差額の減額をお願いするものでございます。第7款共同事業拠出金、第1項共同事業拠出金、第2目保険財政共同安定化事業拠出金でございます。退職被保険者の原則廃止によります一般被保険者の増加などによりまして、この拠出金の算定方法が変更されましたことにより、奈良県国民健康保険団体連合会が確定額を算定し、通知してきたものでございます。これにより増額をお願いするものでございます。第12款前年度繰上充用金、第1項前年度繰上充用金、第1目前年度繰上充用金でございます。272万6千円の減額をお願いするものです。前年度繰上充用の執行額と予算額との差額を減額するものでございます。それでは1ページにお戻りください。朗読をいたします。

(予算書朗読)

国保医療 以上で平成20年度斑鳩町国民健康保健事業特別会計補正予算(第

課長 2号) についてのご説明とさせていただきます。よろしくご審議いただきまして原案どおりご承認賜りますようお願い申し上げます。

委員長 説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。

ございませんか。そうしましたら私の方から1点お尋ねしたいと思うんですが、今回後期高齢者支援金分の増額という形で、きてますけれども、当初予算で国から言われた基準どおり計算をして数字を出していると思うんですが、今回確定ということで金額増額となっておりますけれども、この内容についてですね、どういったことが原因、原因についていうか、になっているのかその辺についてお尋ねをしたいと思います。 植村国保医療課長。

国保医療課長 後期高齢者支援金につきましては、全国の広域連合が支払います医療給付の合計の約4割に当る金額を、被保険者数の割合に応じまして、各医療保険が出し合うという内容になっております。保険者間の財政調整などはありませんけれども、原則といたしましては被保険者1人当たりいくら負担しなければならないかという金額と、被保険者数で求めることができます。今回は予算並びに国保税の税率を算定する際に用いた数字よりも、実際に提示された金額が違うということは、その1人当たりの費用と被保険者数の掴み方が、本町の予算算定時と今回の確定時とでは数字が違っていたのではないかというふうに推測することができますと考えております。

委員長 今回金額が確定して、こндаけ斑鳩町に対して払ってくださいよとくると思いますが、その根拠というのは国の方もその金額と合わせて示してくるものなんですかね。

国保医療課長 1人あたりの費用などにつきまして、最終的に広域連合が支払う費用をどのように取りまとめたのか、という具体的などころまでは市町村に対しての提示はございません。ただ、今、予算算定時ではおよそ

1人あたり3万7,900円を負担するであろうというふうに推計しておいたものが、今回、国から確定額の際に通知がきたのは3万8,217円ということで、若干広域連合が医療費に支払われる給付を多く見込まれているということだろうと思います。それから被保険者数のとらまえかたも、本町では実数でとらまえておったんですけども、ちょっと聞きますと、国の方では国保連が集計した数値を用いているということで、若干そのあたり誤差がでてきているということもあろうかと思います。ただ、今回はご承知のようにあくまでも概算払ということですので、翌々年度に精算していくということになります。従って、今年度実際に国が考えてる程、広域連合が後期高齢者医療に対して給付額を出さなければ、翌々年度で精算されてこの支援金は戻ってくるということにもなりますし、逆に医療費が多くなると更に翌々年度に追加で支払わなければならないという事態がございます。そういったこともありまして、奈良県の広域連合では75歳以上の方につきましても、健診を行うということを決めまして、できる限り医療費を抑えていこうと努力に努めていくということにさせていただいておりますので、ちょっと中期的に見ていかなければならないものなのかな、というふうに考えているところでございます。

委員長

一応、2年後の精算を待たないとはっきりとした確定にはならないということですがけれども、やはりですね、この制度、当初私としては制度自体反対をさせていただいてきましたけれども、やはりこうして増額という形になっていくと、もともと支援金分というのは国保税の中で、住民さん個人に対しての負担となるのに合わせて、さらに国保会計にもですね負担になってくる、やはり心配されるのは介護保険のように大きく国保会計の負担になっていくのではないかという心配もあります。私としては立場的に委員長として表決権はないわけですがけれども、これについては非常に大きな問題があるというふうに思っているということについては意見としてね、申し上げておきたいと思えます。

それでは他にございませんか。

(な し)

委員長

ないようでしたら、これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。本案については、当委員会として原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長

異議なしと認めます。よって議案第42号については、当委員会として満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、(3)議案第43号、平成20年度斑鳩町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)についてを議題といたします。

理事者の説明を求めます。谷口上下水道部長。

上下水道
部長

それでは、議案第43号、平成20年度斑鳩町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)についてご説明申し上げます。

まずはじめに、議案書を朗読させていただきます。

(議案書朗読)

上下水道
部長

恐れ入りますが、補正予算書の2ページをお願いいたします。

第1表継続費補正でございます。第1款公共下水道費、第2項下水道新設改良費、事業名、公共下水道事業(龍田西汚水幹線)、補正前、総額5億円、年割額につきまして、平成20年度1億5,000万円。次に補正後でございます。総額5億1,000万円、年割額につきまして、平成20年度1億6,000万円の補正でございます。

それでは、内容につきましてご説明を申し上げます。

平成18年12月20日付けで本契約を締結し、平成18年度から

平成20年度までの継続事業として取り組んでおります、斑鳩町水質改善下水道事業第11処理分区龍田西污水幹線工事におきまして、工期の延期と工事請負額について変更が必要となりましたことから、本定例会に変更契約の締結を上程しお願いしておりますが、それによりまして継続費の予算補正をお願いするものでございます。

恐れいたします。1ページにお戻りいただけますでしょうか。朗読をもちましてご説明とさせていただきます。

(議案書朗読)

上下水道 以上、議案第43号、平成20年度斑鳩町公共下水道事業特別会計
部長 補正予算(第1号)についてのご説明とさせていただきます。
よろしくご審議賜わり、何卒、原案通りご承認いただけますよう、お
願い申し上げます。以上です。

委員長 説明が終わりましたので質疑をお受けいたします。 嶋田委員。

嶋田委員 僕、すいません、聞き漏らしたかもしれませんけども、これなんで
こんだけ増えたんか、その説明なかったように思うんですけども、
当委員会です、今の委員会で。それなんでですか。

上下水道 嶋田委員、前回、事前委員会ご欠席されてましたので、改めて説明
部長 をさせていただきます。

嶋田委員 あのね、前回欠席やなしに、これはね、この案件のね、賛否とる委
員会でしょ、前回閉会中の委員会で説明したら今説明せんでええわけ
ですか。

上下水道 申し訳ございません。改めて説明をさせていただきます。
部長 まず、平成20年、この現場につきましては、平成18年12月2

0日付けで本契約を締結いたしまして、平成18年度から平成20年度までの継続事業として取り組んでおりました。しかしながら、これは完成目標といたしましては、平成20年10月31日の完成を目指して進めておりましたところ、県道斑鳩三郷王寺線の地下埋設物を事前に調査いたしましたところ、県営水道施設の付近で、県営水道築造に伴います仮設物が道路内に存在していることを確認いたしました。

その一部、基礎関係を撤去している最中に、仮設物の一部撤去されてないものを確認したところでございます。そうしたところから、直線施工、その部分を直線施工で施工を予定しておりましたが、急きょ曲線施工に切替え進めておりました。その地下埋設物の調査及び関係機関との調整、施工協議にかかりました日数、それに伴います工事日数が91日かかったことから、今回議会に変更契約の締結をお願いしております案件につきまして、平成21年1月30日までの工期の延期、そして立抗位置の変更、及びマンホールの構造等に付随する工事を変更し、執行いたしますことから、当初契約額に1,276万3,800円を加えまして、工事請負額を5億101万3,800円に増額変更をお願いしているものでございます。そうしたことからこの継続につきまして、総額、及び年割額につきまして、1,000万円をプラスした形で変更の予算補正のお願いをするものでございます。以上でございます。

嶋田委員 これは総括質疑でもあったとは思いますが、その時にはご答弁なさっているんですけども、こういう事態というのは再度でてくるかもしれませんので、その、総括質疑であったような同じような質問ですねんけれども、当委員会でも理事者側の対応というんですか、それをちょっと述べていただけますか。

上下水道部長 これにつきましては県営水道の管理者でございます県水、及び道路管理者、県道を管理しております道路維持ですね、そうしたところに

協議をして進めておりました。なお県水の管理者につきましては、これは施工は平成8年の施工であったということもございました。しかしながら、その当時J Vで施工しておりました建設会社の担当者も呼びまして、十分協議を進めておったところでございます。しかしながら施工が12年程前のことであったこと、そして県水の管理者及び施工業者についても、そうした細かいところまでの心当たりがないというというような回答でございましたが、そうしたことを受けた中で改めて県道の管理者及び県水道局ですね、にも協力を求めまして、工事履歴の確認と残存処理も含めて県水の管理の方の担当ですね、指導していただいたところでございます。しかしながら結論といたしましては年数も経っておりますことから、県水管理者からの答えも含め、原因の特定は難しいということに結論にいたりまして、当方といたしましてもこういった結論に至ったということでご理解いただきたいと思います。

委員長

他にございませんか。そしたらすいません。私もこれまで他の事前の委員会等からの議論も聞かせていただく中で、これについてはやむを得ない、いたしかたないものというふうに理解をしていますけれども、発覚してからの県とのやりとりの経緯というのは色々聞かせていただきましたけど、事前の段階で、工事に入る前の調査等で県とはどういうふうな協議をされているのかについて、お尋ねをしておきたいと思います。 谷口上下水道部長。

上下水道
部長

こういったシールド、特に下水道の場合には地下トンネル工事が多うございます。そうしたことから既存の占用許可を受けておられる状況を道路管理者にまず確認します。そしてもちろん構造物所有が特定できればその所有されている管理者につきまして、どういった深さ、もしくはどういった構造のものが入っているか、もしくは当時の施工、どういった施工をしたかいうところまで確認します。あくまでもそれは現段階、調査の段階での机上調査になります。その机上調査で得ら

れたデータを元に、すぐに事前調査といたしまして、現地の仮掘削、もしくはボーリングロッド調査ですね、そうした調査を進めております。今後につきましてはこういったことをもっと重点的にさせていただいて、十分な対応をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長

他の委員会で、議長との議論の中で、図面なんかも最初に出して、ここに建物がありましたと、それずらしながらということをやっておられるのかなということですけどもね。これまで色々町の方に対しても要望等ありまして、県との協議と、あと事前調査の町としての対応ですね、これまで要望ありましたけど、今この委員会でも嶋田委員からも色々意見いただきましたように、委員会としても今後の対応方よろしく願いしておきたいと思います。

他にないようでしたら。 浦野委員。

浦野委員

国道とか県道とか造られた時によくその、例えば25号線の国道とか今の県道とか造られた時に、排水管が北と南と分断しますので、排水管が通っていると思うんですけど、その辺の排水管の図面では、県では確認できるような図面があるんですか。

上下水道
部長

我々といたしましては、まず現地を確認しまして、例えば南から北へ抜けるような排水管、水路等の取り合いの関係につきましては、まず現地を確認して占用許可をとられているかどうか確認させていただきます。そして、それ以上に深いものであれば、やっぱりどうしても占用許可、取られているかどうか机上調査になりますので、そういったことをまず先行させていただいて、改めて施工の段階では仮掘削をする、調査するというので、だから実際許可を取られておれば、その状況いうのはわかると思いますが、以外はわかりにくいと思います。

浦野委員

私言ってる排水管というのは、昔からいわゆる国水がずっと水色の国

水が走っておって、それが道つくためにヒューム管なり管を入れたというふうな図面はあるんですかって聞いてるんです。個人の占用許可の排水管じゃないんですけど。

建設課長 当然そういった図面につきましては、国、県なりで管理図面として保管されているというふうに思っております。

委員長 他にございませんでしょうか。

(な し)

委員長 それではないようですので、これをもって質疑を終結いたします。お諮りいたします。本案については、当委員会として原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 異議なしと認めます。よって議案第43号については、当委員会として満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、(4)議案第44号、平成20年度斑鳩町介護保険事業特別会計補正予算(第1号)についてを議題といたします。

理事者の説明を求めます。西川福祉課長。

福祉課長 議案第44号、平成20年度斑鳩町介護保険事業特別会計補正予算(第1号)についてご説明させていただきます。まず議案書を朗読いたします。

(議案書朗読)

福祉課長 それでは説明させていただきます。今回の補正予算の内容についま

しては、平成19年度の決算の確定に伴います補正でございます。予算書に関する説明書の歳入歳出補正予算、事項別明細書によりましてご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

恐れいりますが4ページをお開きいただきたいと思います。まず歳入からご説明させていただきます。第4款支払基金交付金、第1項支払基金交付金、第1目介護給付費交付金では、平成19年度の決算の確定に伴いまして、給付実績に対する法令で定めます割合の負担金及び交付金が入っておらず、その交付不足分の374万7千円を翌年度精算として、平成20年度に受け入れるための増額補正をお願いするものでございます。次に第9款繰越金、第1項繰越金、第1目繰越金では平成19年度の決算の確定に伴いまして、介護給付関係の歳入と歳出の差額で歳入金額の方が多かったため、その差額について平成20年度に繰り越すことになり、その繰越金額分3,786万9千円の増額補正をお願いするものでございます。

次に歳出についてご説明させていただきます。5ページをお開きいただけますようお願いいたします。第4款基金積立金、第1項基金積立金、第1目介護保険給付費準備基金積立金では3,203万5千円を増額するもので、平成19年の決算の確定に伴いまして、繰越額から償還金等を差し引きました余剰金を、介護保険給付費準備基金に積立てるための増額補正をお願いするものでございます。次に第6款でございます。諸支出金、第1項償還金及び還付加算金、第1目第1号被保険者保険料還付金では、18万1千円を増額するもので、これにつきましては平成19年度分の保険料還付金未済金といたしまして、第1号被保険者保険料還付金が確定いたしましたことによりまして、償還金利子及び割引料の増額補正をお願いするものでございます。次に6ページをお開きいただきたいと思います。第2目の償還金でございます。これにつきましては940万円を増額するもので、平成19年度において給付実績に対する法令で定める割合以上の介護給付費、国庫負担金等を国、県から受け入れておりまして、翌年度精算といたしまして、平成20年度にこの超過交付額を返還することから、償還

金利子及び割引料の増額補正をお願いするものでございます。次に補正予算書の1ページにお戻りいただきますようお願いいたします。予算書を朗読させていただきます。

(予算書朗読)

福祉課長 以上、簡単ではございますが議案第44号、平成20年度斑鳩町介護保険事業特別会計補正予算(第1号)についてのご説明とさせていただきます。よろしくご審議のうえ、原案どおりご承認賜りますようよろしくお願いいたします。

委員長 説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。

ございませんか。そしたらすいません、これについては前回の委員会でもお尋ねはしましたけれども、金額的に結構大きな金額がでていうことで、さらにですね、今年度が第4期の計画の策定年度にもあたっているということで、第4期の計画への反映ですね、この金額等も含めて、これから介護保険の運営協議会の方でも協議がされていることかと思いますが、理事者の方として今どのように反映させていこうと考えているか、その考え方だけお聞きしておきたいと思えます。

福祉課長 今、ご質問いただきました積立金が大体3千万と出ております。本計画、第4期計画でございますが、平成18年、19年、20年という3年間の計画でございますが、この19年度決算終わりましたらこれは中間の年ということで考えております。18年度が事業計画から申しますと99.42パーセント、ほぼ計画どおり終わったところで19年度につきましても事業計画と一致しまして96.5パーセントと、ほぼ、大きな改正が18年度にございましたが、ほぼ計画どおり進んでいるところでございます。現在繰越金額につきましても、5,800万少しという形で準備基金の方に積立てさせていただいており

ます。これにつきましては、今後、この20年度につきましてもまだ始まったところでございますが、ほぼ、計画どおり進んでいるところでございまして、この準備基金につきましても、5,800万につきましては、ほぼ同金額になろうと考えております。

次の第4期計画、今、見直し策定を、第1回目の委員会を開きまして詰めているところでございますが、まだ、来年3年間の事業見込み等もこれから計画をしていきます。それと、また国の方からもまた大きな改正等もございませんことから、それらも加味しながらその運営協議会の中で検討していただけるということで、今考えているところでございます。

委員長 前回の委員会の質問の答弁でも、この金額が増えていることで必要な人がサービスを受けられないような状況にはなっていないというふうに答弁いただきましたが、今後もやはりその点にしっかり注意いただきたいと、あと、低所得者対策として第3期の計画の際にも段階設定のところ要望があったかと思しますので、そちらの方もぜひ反映をしていただきたいと要望させていただきたいと、いただいております。他にございませんか。

(な し)

委員長 ないようですので、これをもって質疑を終結いたします。
それではお諮りいたします。本案については、当委員会として原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 異議なしと認めます。よって議案第44号については、当委員会として満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、(5)議案第45号、平成20年度斑鳩町後期高齢者医療特

別会計補正予算（第1号）についてを議題といたします。

理事者の説明を求めます。 植村国保医療課長。

国保医療 議案第45号、平成20年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計補正予
課長 算（第1号）についてご説明申し上げます。まず議案書を朗読いたし
ます。

（ 議案書朗読 ）

国保医療 今回の補正の主な内容でございますが、先の政府与党において出さ
課長 れましたこの制度の見直し方針の中で、市町村の相談体制の整備に要
する費用が、特別調整交付金で措置されるということになったことに
伴うものでございます。本町といたしましては、現在1台しかござ
いません。広域連合と直接接続した端末機を増設いたしまして、広域
連合からのデータの検索をより容易にすることにより、保険料に関す
る相談などにスムーズに対応していきたいと考えておりまして、この
端末機の増設に係る経費の補正をお願いするものでございます。

それでは予算書に沿いましてご説明申し上げたいと思います。予算
書の4ページをお開きいただきたいと思います。まず歳入でございま
す。第5款諸収入、第2項雑入、第1目雑入でございまして、40万7
千円の増額の補正をお願いするものでございます。これは奈良県後期
高齢者医療広域連合からの交付を受けるものでございます。先に申し
上げましたように国の特別調整交付金が一旦広域連合に対して交付さ
れまして、改めて広域連合から各市町村に交付されることとなってい
るものでございます。次に5ページでございまして、歳出をご説明申し
上げます。第1款総務費、第2項徴収費、第1目賦課徴収費でござい
ます。歳入と同額の40万7千円の増額をお願いするものでございま
す。端末機の設置に係ります経費でございまして、購入経費でござい
ます。それでは1ページにお戻りいただけますでしょうか。朗読をいた
します。

(予算書朗読)

福祉課長 以上で、平成20年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）についてのご説明とさせていただきます。よろしくご審議をいただきまして、原案どおりご承認賜りますようお願い申し上げます。

委員長 説明が終わりましたので、質疑をお受けいたします。
ございませんか。 木田委員。

木田委員 この後期高齢者医療の関係することなんですけれども、分離家庭ちゅうんですか、夫婦が同じ家の中に住んでおってもその台所ちゅうんですか、そういうふうなもんとかを別にしておればものすごく掛け金が安くなるというような報道がなされてましてんけど、斑鳩町の場合はそういう方がおられるのかどうかということとですね、今朝、みのもんたの番組の中で東京の日の出町がですね、高齢者医療保険税はとるけども、医療費は全額無料、これ人口1万6,000の町なんですけれども、75歳以上の人が約2,000人程おられるいう町でですね、そういうなにか今年度から実施されるということで、そういうところが出てきたらものすごく町村とか市町村によって差が生じると思いますけれども、それについての感想とその2点ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

委員長 たぶん世帯分離。

木田委員 分離世帯いうんか、世帯分離いうんか、同じ家の中に住みながら。

委員長 はい。わかりました。 植村国保医療課長。

国保医療 後期高齢者医療制度におけます制度と申しますのは、住民基本台帳

課長

上の世帯ということでございます。ですから住民基本台帳で世帯が分離されている場合には、分離された世帯として取り扱いますし、住民基本台帳で同一世帯であれば、あくまでも同一世帯ということで取り扱いをいたします。

木田委員

それはわかりますねんけどね、書類上のなにだけやからね。その分離するちゅうんか同じ家に住みながらでんな、姓も一緒やし、ただその世帯っちゅうんか食事も一緒にしない、別々にしてると。だから現に昨日かなんかテレビでしてたんでは、そういう世帯の人は奥さんが130万か年間ね、ほんでだんなさんが260万もろてる人がでんな、それによって年間4万1千なんぼか減額されたということで、別に何も同じ家に住んどんねんからね。だけどそのトイレとか別個になかったらあかんわけですわ。トイレとか風呂とか台所とかが。だからそういうふうなもんを備えておるような家庭であればね、分離家庭っちゅうんかこういう家庭やったらそういうふうになくなるちゅう、まあそういうこと研究しておられる人やと思いますねんけどね。そういうことのあるようななにが町ではあんのかなと、今、住民基本台帳って言わはったけどね。だからそんなんは書類上のことででんな、そんなん同じ家の中におってもそんなん書類だけ分離ちゅうんか別居、別居いうたらおかしいかな。だからそういうふうな家庭がね、あんのかどうかということを知ってるわけですわ。なんかこう掛金が多くなってきたから、そういうことを考える人も世の中にはやっぱりすごい人が出てきはるからね。それがマスコミを通じてでんな、そないしてバーッと報道されたら、やっぱりそんなん書類上だけのことやったらそら分離したらそんだけ助かんのやったらいうふうな形で増えてきたらこれもかなんなということででんな、そういう現状は斑鳩町はないのやったらないでけっこうなんですな、そういうなにが、マスコミで報道されたらすぐそれに便乗する人も出てくると思うからね、それについては今のところそういう傾向はないんですか、ということをお聞かせ願いたいと思います。

委員長 西本住民生活部長。

住民生活部長 戸籍基本台帳法上では1つの家に住んでおれば1つの世帯とみなしているところをごさいますて、実態は、そういった実態は町の方では掴んでいないのが現状でございます。本人が申請、転入転出されてきましたら、同じ住所であれば1つの世帯というのが通常でございます。だからそのあたしの把握は町としてはしていないのが現状でございます。

木田委員 それがね、結局同じ家の中に住んではりまんねんで。だからそれを聞いているわけですよ。台所とか風呂とかね、そんなんが2つあったらそれでいけるということをテレビではやっぱりそういうことを言うてるわけですよ。ほんで1年にそないして安くなるということを言うてはるからね。なんかそこらへんのとこの線引きがでんな、2つあったらそんでええかと、使っても使てないでもそれがあればそれでいけんのかなということをね。だから今言っはるのやったら住民基本台帳で夫婦で入っきてはったら必ずしも夫婦とは限らへんわな、2人で入ってきはっても。だから住民基本台帳の中ででんな、そら同じ姓名乗ってはってもなんかこう分かれてるいうたらおかしいけどなんかこう1人1人が別になってる世帯もあるわけでっしゃろ。だからその辺のところがね、斑鳩町なかったらないでそら結構なんですけど。

委員長 小城町長。

町長 こういうこと聞いてたかて、みのもんたさんのテレビですから、木田委員がどうされたのか、そういう関係をとられたのか、実態をですね、やっぱり一応問い合わせてですね、聞いてみなきゃわかりませんし、それが斑鳩町に当てはまるのか当てはまらないのか基本的にはやっぱり今、担当の部長申しますように住民基本台帳これを信用してい

かなかったらですね、どないもしゃあないですから。ただ木田委員のおっしゃっているように、2世帯住宅であるのかそういういろんな構造ですね、分かれてるのかですね、やっぱりトイレは別であるとかかなんとか、そういうことに私はならないと思います。やっぱりこれは共用するんですから、あんたこれ使いなさい、これ私は使いますということには私はならないと思いますし、そこらのところは十二分に研究をしなきゃですね。ただテレビっていうのはいいことは必ず言います。しかしそのあとのことの追求というのは私はないと思います。だから先ほど日の出町の、東京都の日の出町がやれることは、そりゃ医療費無料にされる、こりゃまあ一つの報道はされますけれども、各都道府県、市町村のこれからの動向ちゅうのか、私はやっぱり東京都の日の出町は非常に財政的に裕福であろうと、税金等が非常に集まっています。東京都なんて日本の政府よりも東京都の方が財政はいいわけですから、これほど立派な町が、我々の町なんて町民税とそれから交付税だけのあてですから、もうあきらかに全然違いますからね、その辺のどこをやっぱり考えていかなかったらとてもこれは無理でしょうと。なんでも一緒にですね、これはもう医療の関係でもなんでもですね、最初は全部いいこととしていくわけです。ただやっぱり高齢者でも増えてきたら結局やっぱりだんだんと節約を、節約いうのかカットしていかなかったら、そらそうでしょう、100歳になるというのはなかなかとても考えられなかった、その時に100万程出してるところがあるわけです。それを斑鳩町がやりませとということで10万円してますけれども、しかしこれもやめていかれてるわけです。大和郡山なんかでももう100万円はやめますと、それは当然でしょう、100歳が10人も15人も増えてたらそんなとても追いつきませんし。まあそういうことよりもできるだけ持続していける、我々として斑鳩町としてはそういう福祉に恩恵を与えるとか、長生きをしていただいた、あるいはまたそういう斑鳩町に住んでいただく方の福祉に対してはやっぱり後退してはいけない。できるだけやっぱり検診でも0歳児から3歳児まで無料にする、あるいは県があるいはそういうことでやって

ますようにですね、そういうことを持続していくということが一番大事だろうと思います。今、木田委員がおっしゃっているように、日の出町の関係等については日の出町のこれからの財政的に考えたら、医療費を無料にして、できるだけ検診を受けられる体制づくりをされていると思っておりますし、病気ならないというのか、そういう点も大事であろうと思います。我々としても研究の余地はございますけども、斑鳩町としても将来的にどうあんのか、財政的な案件もございまして、そこらを十二分に考えていくということでございます。

木田委員　　なんでっせ、分離家庭言うたんは、これはまたみのもんと別のテレビで言ったよって、ちょっと一緒にしてもろたらなんでんねんけどね。日の出町の場合は、イオンモールが進出してきたのでそれによつてですな、年間3億3千万かなんかの固定資産税いうんかなんかが増収になるから、無料にしたって年間8,500万ぐらいらしいからね、それで十分やっていけると、いうふうに今朝、町長自体も出てきてそういう報道されておったからね。そらやっぱりそういう収入源ちゅうものがあるってこそできることやけども。まあそういうことも中にはあるということですね。東京の近郊からなんか今500戸ほどの団地を建ててるらしいですねんけど、その内150戸はもう入居済みで、あと350戸ほど、新しい住宅建つらしいですねんけど、そういうふうに人口が流入してくるということになったら、またそれも持続できるか、今町長も言ったように持続できるかどうかちょっと心配な点もあんなんけども。やっぱりそういうふうに報道されたら、こんだけ差あんのちょっとおかしいのんちゃうかというふうな意見も出てくると思うのでね、まあできるだけ斑鳩町の場合は伸びがなければ滞納者に対してですね、もっと積極的に徴収するように、それしかいたしかたないと思いますので、その点についてよろしくお願い申し上げます。もう結構ですわ。

委員長　　せっかく木田委員質問していただいたんで、斑鳩町としてね、世帯

分離の申請があった時にどう対応されているのか、今日ちょっと住民課長いてないんで、すぐ答えていただけるかどうかわかりませんが、そして、その対応について法令ではどういうふうに定められているのか、お答えいただくことは。

住民生活 ちよつと申し訳ございません。あとで調べてご報告させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

委員長 そしたらまた次回の委員会、次回の委員会の際にまたお答えいただきたいと思ひます。

他にございませんでしょうか。

(な し)

委員長 ないようですので、これをもって質疑を終結いたします。お諮りいたします。本案については、当委員会として原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 異議なしと認めます。よつて議案第45号については、当委員会として満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、2. その他についてを議題といたします。委員の方から質疑、ご意見等がございましたらお受けしたいと思ひます。 嶋田委員。

嶋田委員 先ほど感じたんですけれども、閉会中の委員会、次の定例会に付託されるであろう案件については、報告という形でいただいております。それは議員として研究したり、また疑義あるところを研究したり、理事者側に聞いたりということ、付託された案件の賛否をするのは定例会中の委員会であるということですね。私はそのように思つてい

ます。そして先ほどなんか当初予算に1千万円程増えましたとご審議
お願いしますと、これ会議録読まれた方、どんな説明やねんというふう
なことを思われるんでないかなど。なんかまあいやあ当委員会を馬
鹿にしたような説明、まあ軽視、委員会軽視、ひいては議会軽視に繋
がっているのではないかなと思いますんでね。これは他の委員会でも
私感じておりますが、まあ物言わはる議員も多いんで、議員も悪い部
分もあるんでしょう。あると思いますけれども、委員長としてね、こ
の当委員会の打ち合わせ等に理事者側にですね、そこらへんは十分に
納得して説明してもらおうようにですね、はかっていたきたいとこの
ように思います。

委員長 かなりまあ嶋田委員からご意見いただきました。やはり事前でも説
明はいただいておりますけれども、議事録を読まれる方のことも考えて、
更に議案の態度表明をする場でもありますので、十分審議ができるご
説明をいただけるようにと、今後も私も事前に打ち合わせ等もさせて
いただいておりますので、理事者の方ともよく相談しながらその辺の
対応方はさせていただきたいと思います。理事者の方におかれまして
も、嶋田委員の今いただきましたご意見十分にお聞きいただいでです
ね、対応方よろしく願いいたします。

他よろしいでしょうか。ございませんか。

(な し)

委員長 それではないようですので、その他についてもこれをもって終了い
たします。

なお、お手元に配布しております閉会中の継続審査申出書のとおり、
当委員会として、引き続き調査を要するものとして、このように決定
することにご異議ございませんか。

委員長 (異議なし)

委員長 異議なしと認めます。議長におかれましては、継続審査の手続きをとっていただきますようお願いいたします。

これをもって、本日の案件についてはすべて終了いたしました。

なお、本日の委員会報告のまとめについては、正副委員長にご一任いただきたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なし)

委員長 ありがとうございます。異議なしと認めます。

それでは、閉会にあたり町長の挨拶をお受けします。

(町長挨拶)

委員長 これをもって予算常任委員会を閉会いたします。どうもお疲れ様でした。

(午前10時22分 閉会)